



**2024年2月期
第2四半期決算説明資料**

2023年10月12日

株式会社ツインバード 証券コード：6897

2024年2月期 第2四半期（累計）決算ハイライト

売上高は巣ごもり需要の反動減に加え、電気代や物価上昇による生活防衛意識の高まりから、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けたものの、前年下期から投入した新製品が当第2四半期（累計）の売上に寄与した結果、前年同期並みに推移。利益面は前年下期に実行した価格改定、新製品の導入、原価低減効果により売上総利益率が前年同期比3.7pt改善^{※2}、また販売費及び一般管理費率を同1.1pt削減^{※2}し、前年同期より営業損失を半減・圧縮

売上高

47.8億円
(前年同期^{※1} 48.0億円)

四半期純利益

△1.4億円
(前年同期^{※1} △2.9億円)

売上総利益率

30.3%
(前年同期^{※1} 26.5%)

家電製品事業
セグメント利益*

1.5億円
(前年同期^{※1} △0.7億円)

営業利益

△2.2億円
(前年同期^{※1} △4.8億円)

FPSC事業
セグメント利益*

0.7億円
(前年同期^{※1} 1.0億円)

経常利益

△1.9億円
(前年同期^{※1} △4.0億円)

自己資本比率

74.1%
(前期末比 +1.0pt)

※1 連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております ※2 前年同期の単体数値との比較

*調整額（全社費用4.6億円）を除外

2024年2月期 第2四半期（累計）決算のポイント

■ 第2四半期（累計）業績

- 家電製品事業は、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けたものの、前年下期から投入した2ドア冷凍冷蔵庫（定格内容量121L）や4ドア冷凍冷蔵庫（「中身が見える冷蔵庫」「背伸びせず使える冷蔵庫」 定格内容量354L）などの新製品が当第2四半期の売上に寄与した結果、売上高は前年同期並みに推移
セグメント利益は、前年下期に実行した価格改定、新製品導入、原価低減効果により売上総利益率が改善したことに加え、販売費及び一般管理費を圧縮して黒字転換を実現
- FPSC事業は、米国向けワクチン用運搬庫がコロナ禍収束に伴い販売一巡したため前年同期より減収

■ 通期業績予想（2023年4月12日公表値から変更なし）

- 長期にわたり製造コストが高止まりする環境の中、2023年9月5日に家電製品の5%以上の価格改定を実施
最大の需要期である年末商戦に向けて、9月末には「おいしい低糖質パンベーカー」を発売、さらに11月には全自動コーヒーマーカーに続く、匠の技術・暗黙知を家電の力で具現化する「匠プレミアム」戦略的新製品をはじめ、冷凍冷蔵庫・全自動洗濯機・フラット電子レンジなどの生活必需品を中心に続々と新製品を投入し、売上高の伸長を図る
- 新商品開発投資を継続しながらも、原価低減活動や物流費の圧縮、経費削減を実行し、更なる収益性の改善を図る
変動費率を低減し損益分岐点を引き下げるとともに、売上高の伸長により当第4四半期は大きく業績が向上する見込み
- WHO（世界保健機関）のPQS(Performance, Quality and Safety)認証を2023年10月末日途に取得予定
UNICEFなど国連関係機関等の機材選定基準を満たすことで、ワクチン運搬庫の海外販売を拡大

■ 中間配当及び年間配当予想（2023年4月12日公表値から変更なし）

- 中間配当は当初予想どおり1株当たり3円を支給
年間配当は1株当たり13円（中間配当3円、期末配当10円） DOEは1.7%を予想

目次

1. 2024年2月期 第2四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 2024年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

目次

1. 2024年2月期 第2四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 2024年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

2024年2月期 第2四半期（累計） 損益概況

売上高は巣ごもり需要の反動減に加え、電気代や物価上昇による生活防衛意識の高まりから、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けたものの、前年下期から投入した新製品が当第2四半期（累計）の売上に寄与した結果、前年同期並みに推移。利益面は前年下期に実行した価格改定、新製品の導入、原価低減効果により売上総利益率が前年同期比3.7pt改善^{※2}、また販売費及び一般管理費率を同1.1pt削減^{※2}し、前年同期より営業損失を半減・圧縮（参考）

単位：百万円	2023年度	2022年度※1	2023年度
	個別 2Q 累計実績	連結 2Q 累計実績	通期個別 業績予想
売上高	4,786	4,805	11,000
売上総利益	1,448	1,271	
売上高比	30.3%	26.5%	
販売費及び一般管理費	1,677	1,752	
売上高比	35.0%	36.5%	
営業利益又は営業損失（△）	△228	△480	300
売上高比	-4.8%	-10.0%	2.7%
経常利益又は経常損失（△）	△193	△400	260
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△143	△299	180

※1 連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております ※2 前年同期の単体数値との比較

第2四半期（累計） セグメント別業績概況

- 家電製品事業** ・ 家電製品事業は、消費マインドの低下や買い替えサイクルが長期化したことなどの影響を受けたものの、前年下期から投入した2ドア冷凍冷蔵庫（定格内容量121L）や4ドア冷凍冷蔵庫（「中身が見える冷蔵庫」「背伸びせず使える冷蔵庫」 定格内容量354L）などの新製品が当第2四半期の売上に寄与した結果、売上高は前年同期並みに推移
セグメント利益は、前年下期に実行した価格改定、新製品導入、原価低減効果により売上総利益率が改善したことに加え、販売費及び一般管理費を圧縮して黒字転換を実現
- FPSC事業** ・ 米国向けワクチン用運搬庫がコロナ禍収束に伴い販売一巡したため前年同期より減収

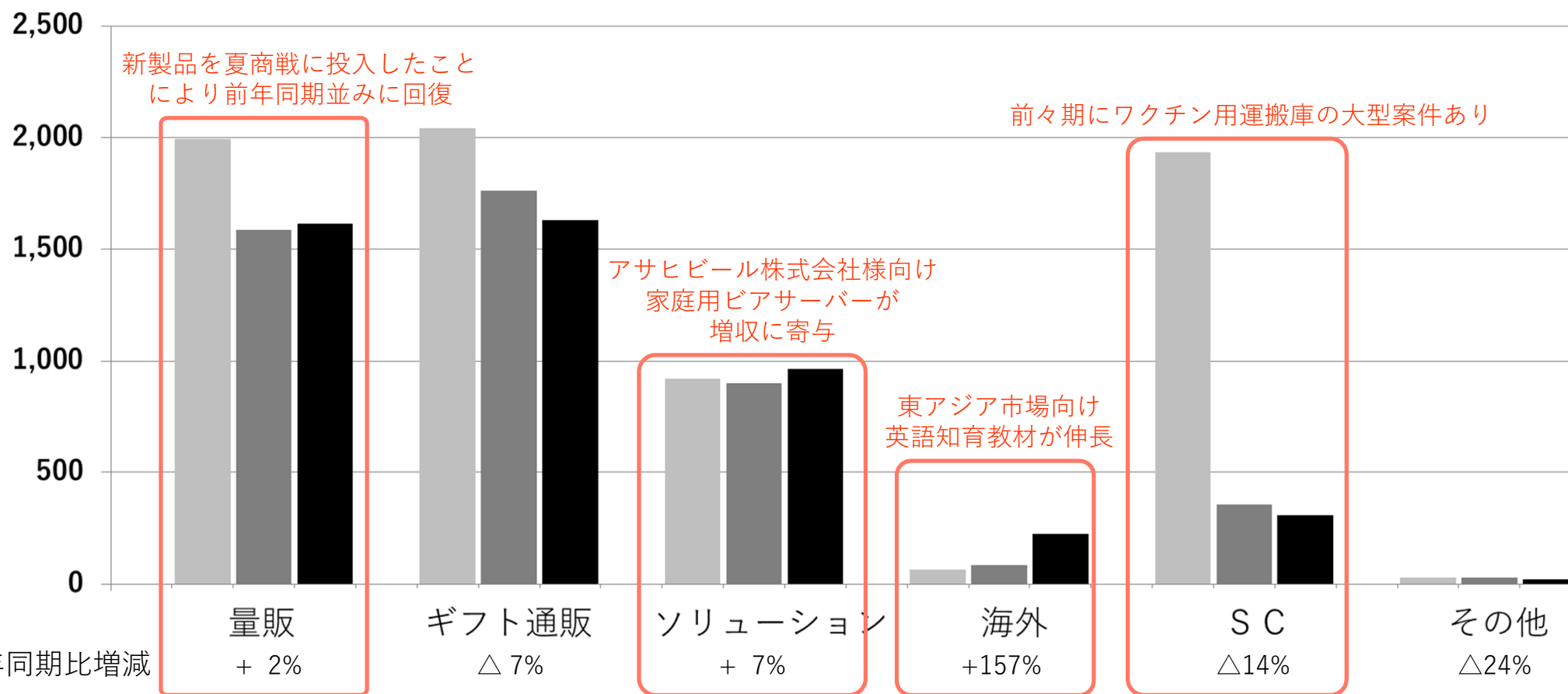
単位：百万円	売上高		セグメント利益（営業利益）	
	2023年度 個別2Q実績	2022年度※ 連結2Q実績	2023年度 個別2Q実績	2022年度※ 連結2Q実績
家電製品事業 売上高比	4,462	4,418	157 3.5%	△79 -
FPSC事業 売上高比	323	387	78 24.3%	106 27.6%
調整額			△464	△508
全社 計 売上高比	4,786	4,805	△228 △4.8%	△480 △10.0%

※連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております

第2四半期（累計） 販売チャネル別 売上高の推移

(百万円)

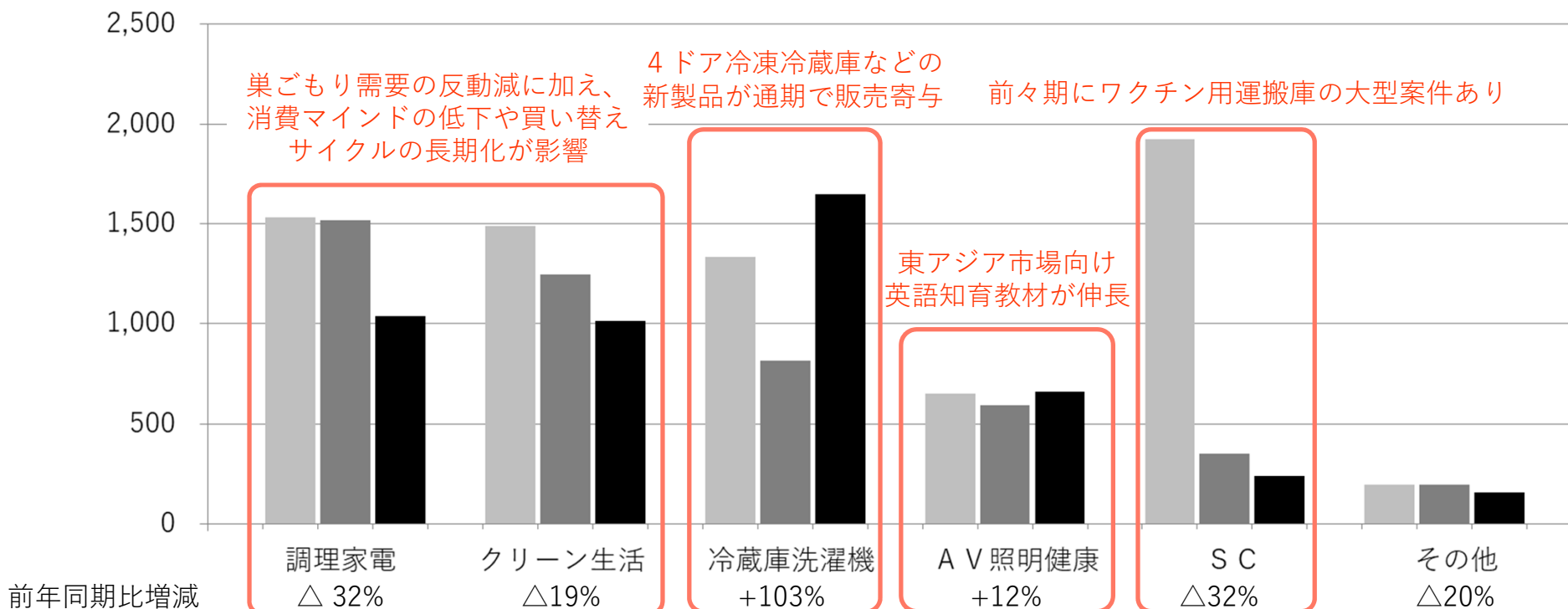
販売チャネル別 売上高



第2四半期（累計） 商品ジャンル別 売上高の推移

(百万円)

商品ジャンル別 売上高



全自動
コーヒー
メーカー
CM-D465B



コードレス
スティック型
クリーナー
TC-E264B



中身が見える
冷蔵庫
HR-EI35B



2ドア
冷凍冷蔵庫
HR-GJ12B



東アジア市場向け
英語知育教材
BR2JP
© Disney

第2四半期末 貸借対照表

新生活商戦の売上債権の回収が進み総資産を圧縮 前期末配当と四半期純損失の計上により純資産も減少
自己資本比率は74.1%と引き続き財務安全性の水準は高く、今後の事業展開に向けた戦略的投資を継続

単位：百万円	2023年度 2Q末	2022年度 前期末	増減		2023年度 2Q末	2022年度 前期末	増減
現預金	769	861	△91	仕入債務	143	232	△89
売上債権	1,865	2,154	△289	短期借入金	600	400	200
棚卸資産	2,719	2,562	157	長期借入金	805	920	△115
その他	547	496	50	その他	1,246	1,439	△193
流動資産 計	5,901	6,074	△172	負債 合計	2,794	2,992	△197
有形固定資産	3,776	3,892	△115	資本金・資本剰余金	5,143	5,129	14
無形固定資産	396	381	15	利益剰余金	2,674	2,926	△252
投資その他資産	732	783	△50	その他	194	82	112
固定資産 計	4,905	5,056	△151	純資産合計	8,012	8,138	△125
資産 合計	10,806	11,130	△323	負債&純資産合計	10,806	11,130	△323
				自己資本比率	74.1%	73.1%	1.0pt

第2四半期（累計） キャッシュ・フロー計算書

新生活商戦の売上債権の回収が進んで売上債権が減少したことなどにより、営業キャッシュフローを確保
DX投資や新商品開発投資などが先行し、フリーキャッシュフローはマイナスとなる

(単位：百万円)

	FY23 (個別)	FY22 (連結)	前年同期比		FY23 (個別)	FY22 (連結)	前年同期比
税引前当期純利益	△193	△408	214	短期借入金の増減額	200	200	0
減価償却費	201	148	52	長期借入金の増減額	△115	△155	40
売上債権の増減額	289	353	△64	リース債務の返済額	△43	△47	3
棚卸資産の増減額	△157	174	△331	配当額の支払額	△108	△129	20
仕入債務の増減額	△89	△37	△51	財務CF	△66	△131	65
その他	75	△204	280	フリーキャッシュフロー	△27	△117	89
営業CF	125	25	99	現金等の換算差額	2	46	△43
固定資産の支出額	△166	△180	13	現金等の増加額	△91	△203	111
投資有価証券の売買額	8	△0	8	現金等の期首残高	485	1,009	△524
その他	4	37	△32	現金等の期末残高	393	806	△413
投資CF	△153	△143	△9				

補. キャッシュ・フロー計算書 主要トピックス

DX投資や新商品開発投資などが先行し、フリーキャッシュフローはマイナスとなる

FY23

(単位：百万円)

■ 増加 ■ 減少 ■ 合計



目次

1. 2024年2月期 第2四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 2024年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

2024年2月期 通期個別業績予想（2023年4月12日公表値から変更なし）

- 長期にわたり製造コストが高止まりする環境の中、2023年9月5日に家電製品の5%以上の価格改定を実施
最大の需要期である年末商戦に向けて、9月末には「おいしい低糖質パンベーカー」を発売、さらに11月には全自動
コーヒーマーカーに続く、匠の技術・暗黙知を家電の力で具現化する「匠プレミアム」戦略的新製品をはじめ、冷凍冷
蔵庫・全自動洗濯機・フラット電子レンジなどの生活必需品を中心に続々と新製品を投入し、売上高の伸長を図る
- 新商品開発投資を継続しながらも、原価低減活動や物流費の圧縮、経費削減を実行し、更なる収益性の改善を図る
変動費率を低減し損益分岐点を引き下げるとともに、売上高の伸長により当第4四半期は大きく業績が向上する見込み
- WHO（世界保健機関）のPQS(Performance, Quality and Safety)認証を2023年10月末を目途に取得予定
UNICEFなど国連関係機関等の機材選定基準を満たすことで、ワクチン運搬庫の海外販売を拡大

単位：百万円	2023年度	2022年度		
	通期 個別業績予想	前期 個別実績	差額	前期比 変動率
売上高	11,000	10,838	161	1.5%
営業利益	300	42	257	598.8%
売上高比	2.7%	0.4%	2.3pt	
経常利益	260	147	112	76.8%
当期純利益	180	57	122	213.1%

目次

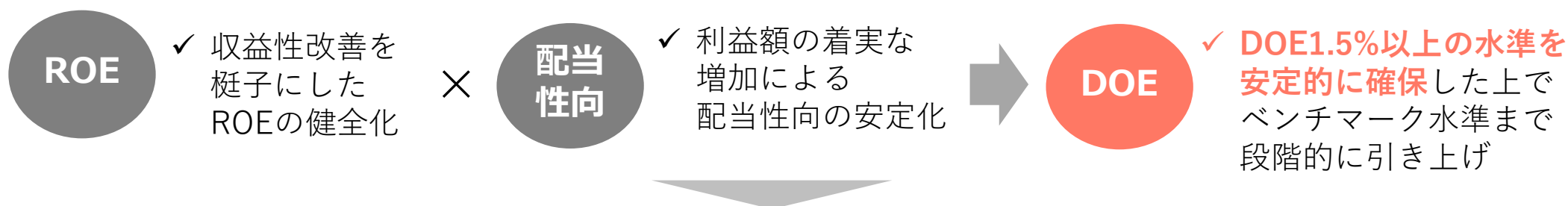
1. 2024年2月期 第2四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 2024年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

2024年2月期 中間配当

【当社株主還元政策の基本的考え方】

- 当社は企業価値の向上により、株主価値を高めることを経営の重要課題と認識しております。業績を向上させ財務体質の強化を図ることで、安定的かつ持続可能な株主還元（配当・自己株式取得）をおこなうことを基本方針としています
- 配当については、DOE1.5%以上の水準を安定的に確保し、段階的に引き上げることを目指しております
- 一方、自己株式の取得については、資本効率向上などを目的として、経営環境、業績動向、並びにフリー・キャッシュ・フローや財務レバレッジの水準、将来の事業資金需要の見通しなどを総合的に考慮し、適切な時期に機動的に実施します



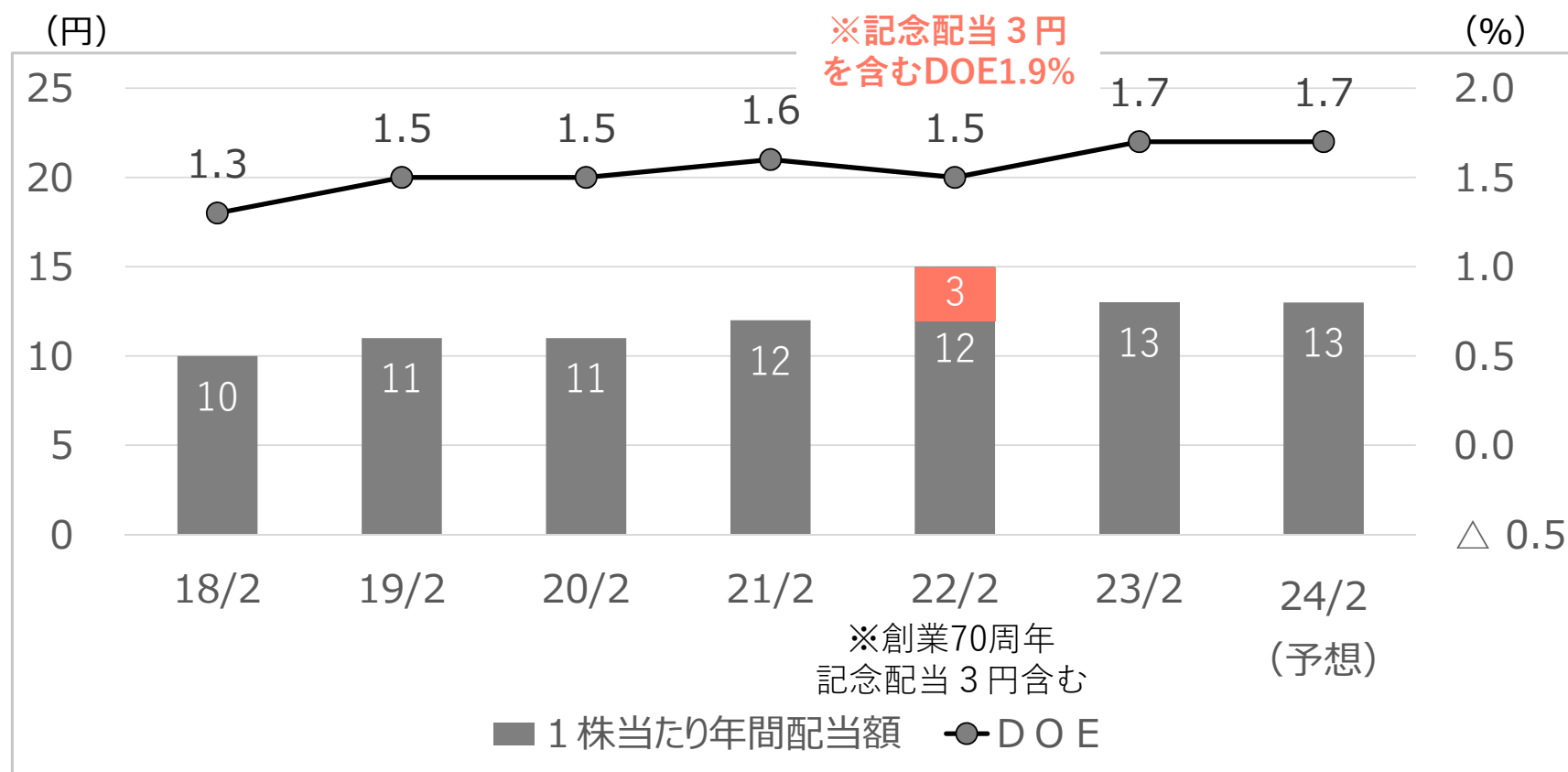
第62期（2023年3月1日～2024年2月29日） 中間配当

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| 1. 中間配当金 | 当社普通株式 1 株当たり 3 円 |
| 2. 支払総額 | 32,675,148円 （株式数10,891,716株 × 3 円） |
| 3. 配当の効力が生じる日 | 2023年11月16日 |

1株当たり年間配当額、純資産配当率（DOE）

中間配当は当初予想どおり1株当たり3円を支給

年間配当は1株当たり13円（中間配当3円、期末配当10円） DOEは1.7%を予想



目次

1. 2024年2月期 第2四半期（累計）決算概要
2. 2024年2月期 通期業績予想
3. 2024年2月期 中間配当 年間配当予想

補足資料：四半期別業績数値

第2四半期（3ヶ月） 損益計算書

単位：百万円	2023年度	2022年度※
	個別 2Q 実績	連結 2Q 実績
売上高	2,418	2,286
売上総利益	724	601
売上高比	30.0%	26.3%
販売費及び一般管理費	826	879
売上高比	34.2%	38.5%
営業利益又は営業損失（△）	△101	△278
売上高比	-4.2%	-12.2%
経常利益又は経常損失（△）	△80	△233
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△61	△168

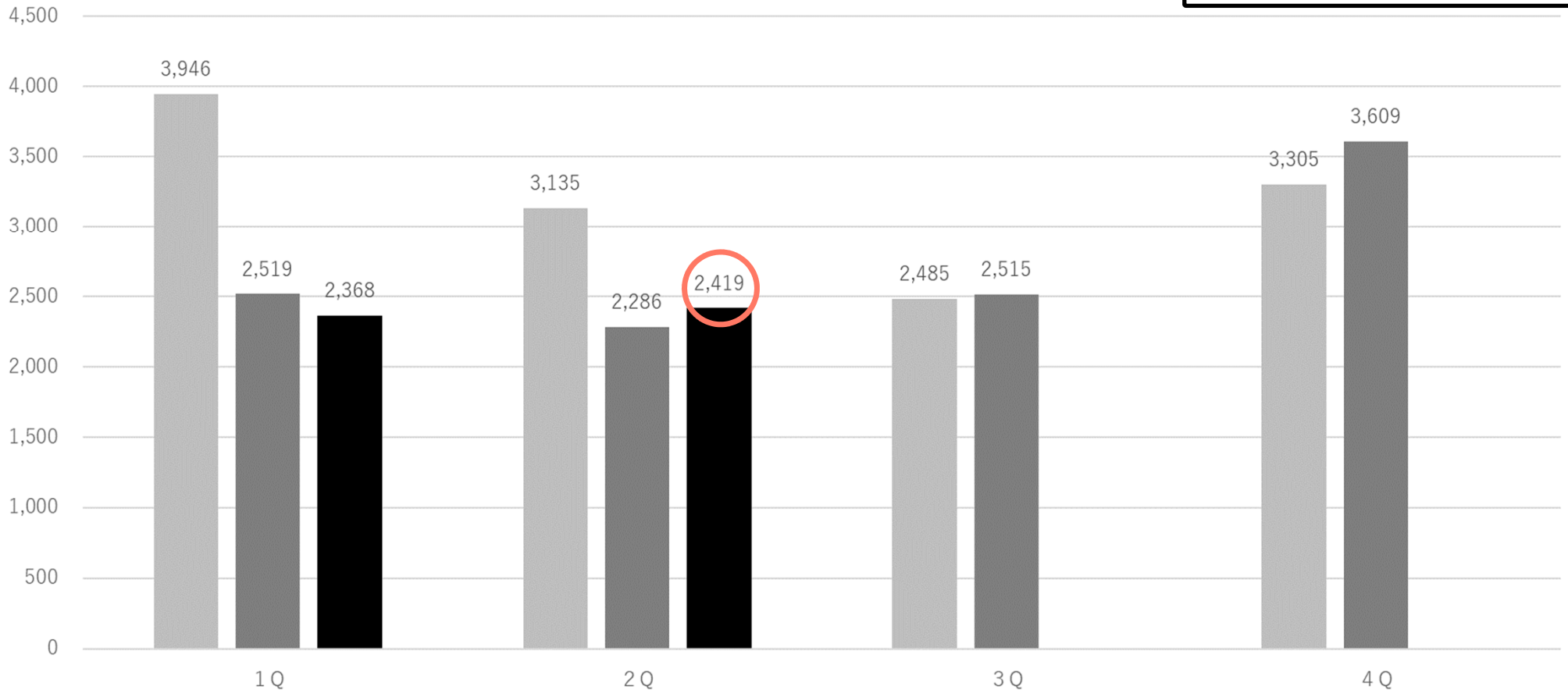
※連結子会社の解散・休眠化に伴い当期より非連結決算へ移行したため、前年同期は連結数値を記載しております

四半期別業績数値 純売上高

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

(百万円)

四半期別比較<純売上高>



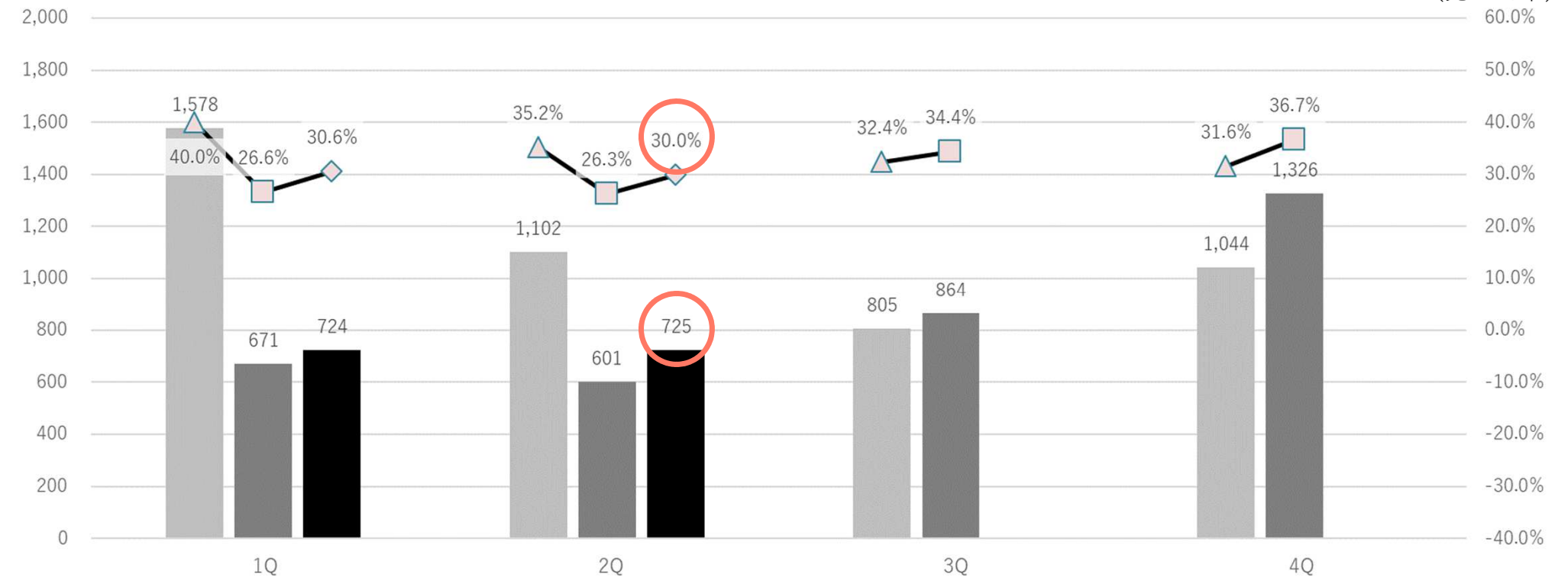
四半期別業績数値 売上総利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較<売上総利益>



(百万円)



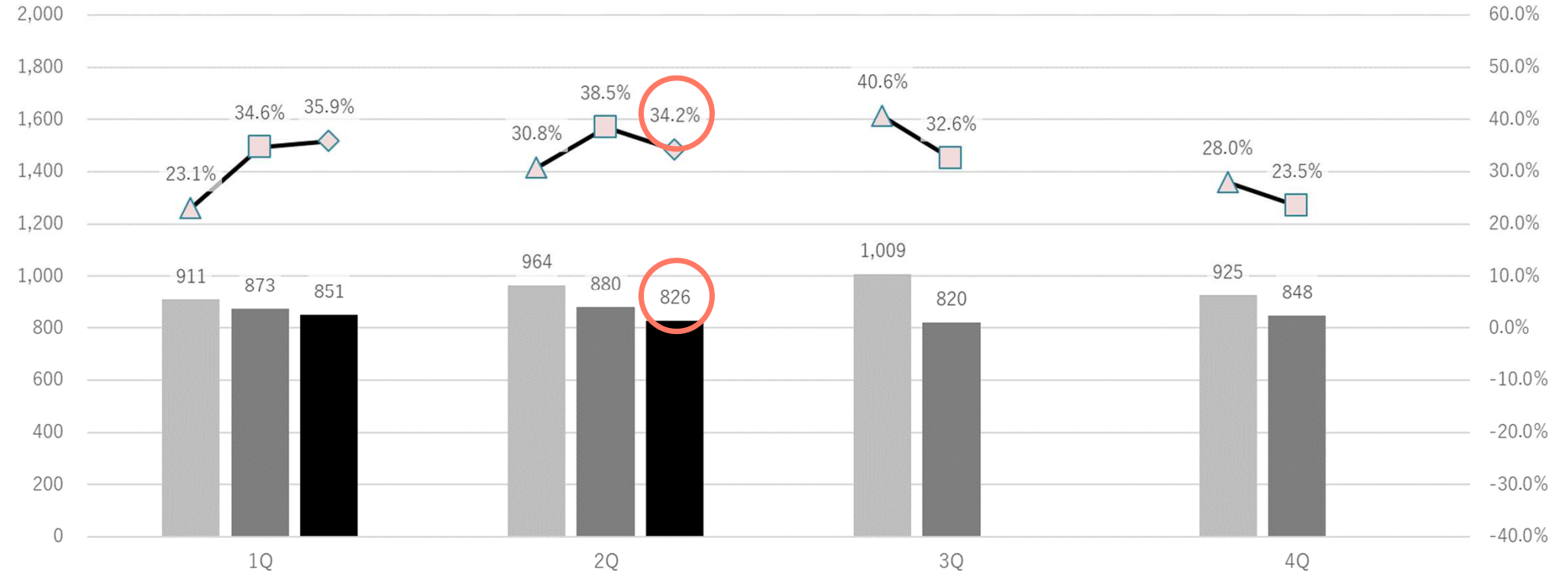
四半期別業績数値 販売費及び一般管理費

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較＜販売費及び一般管理費＞



(百万円)



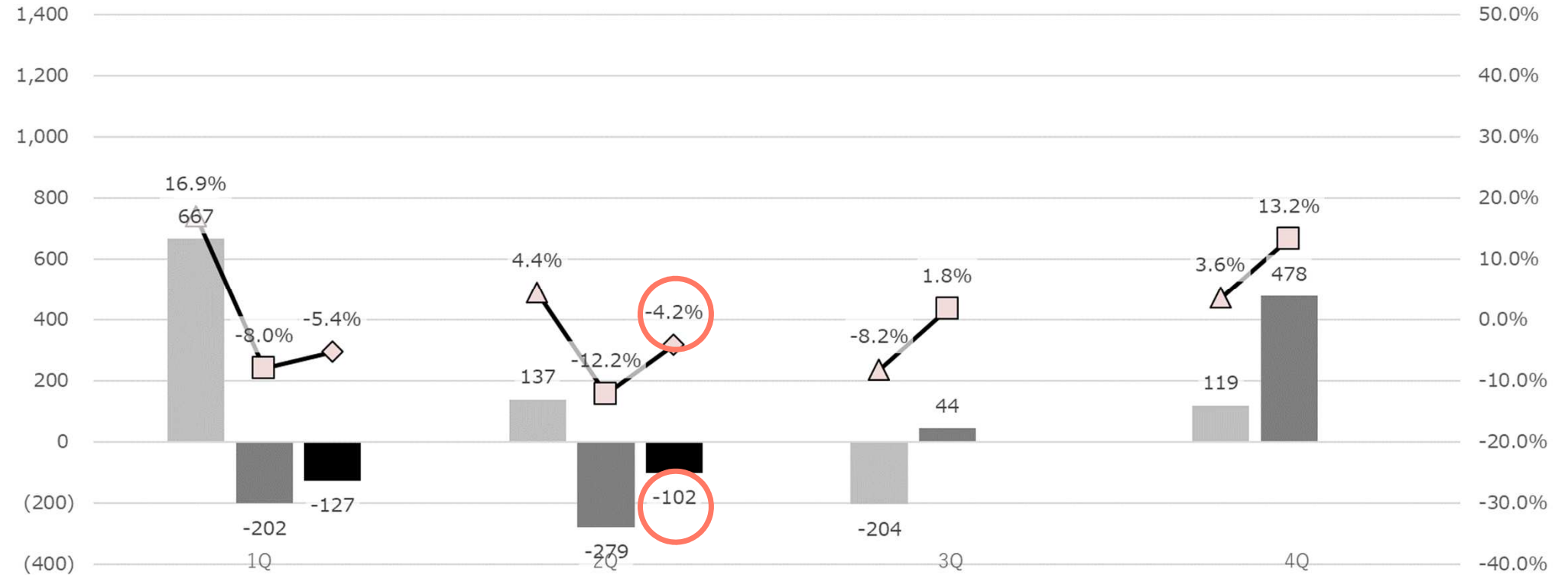
四半期別業績数値 営業利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較 < 営業利益 >



(百万円)



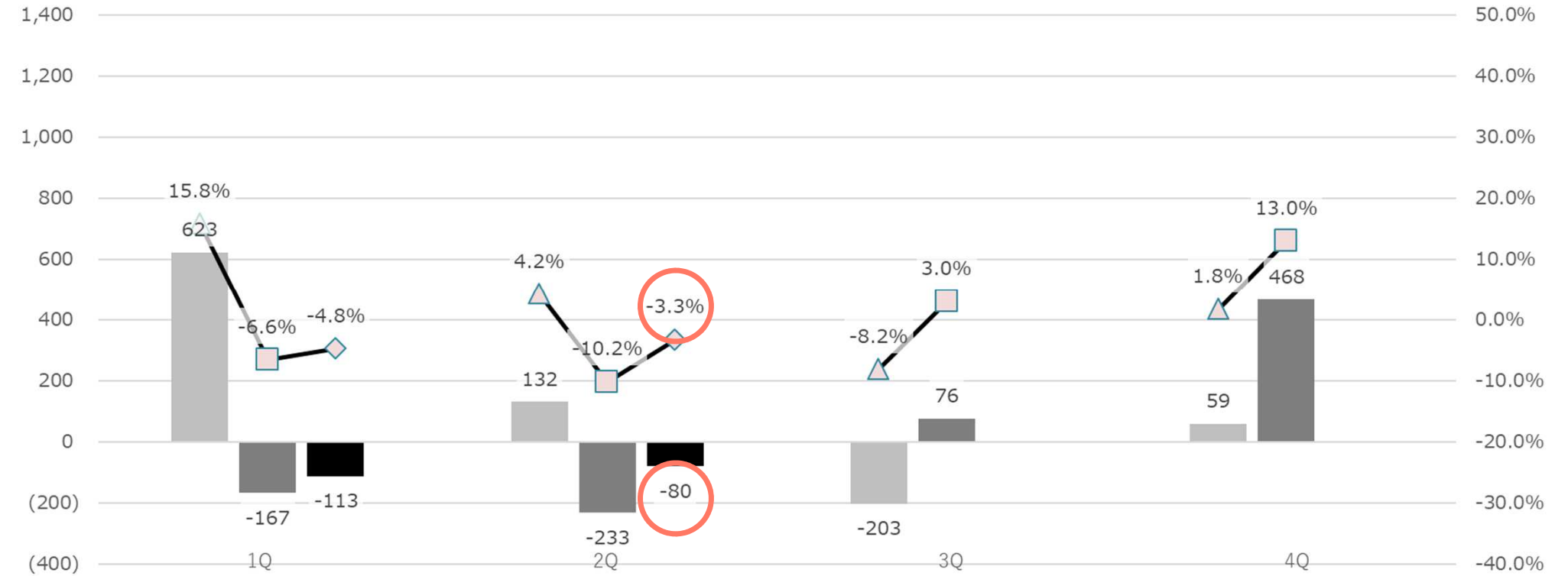
四半期別業績数値 経常利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較<経常利益>



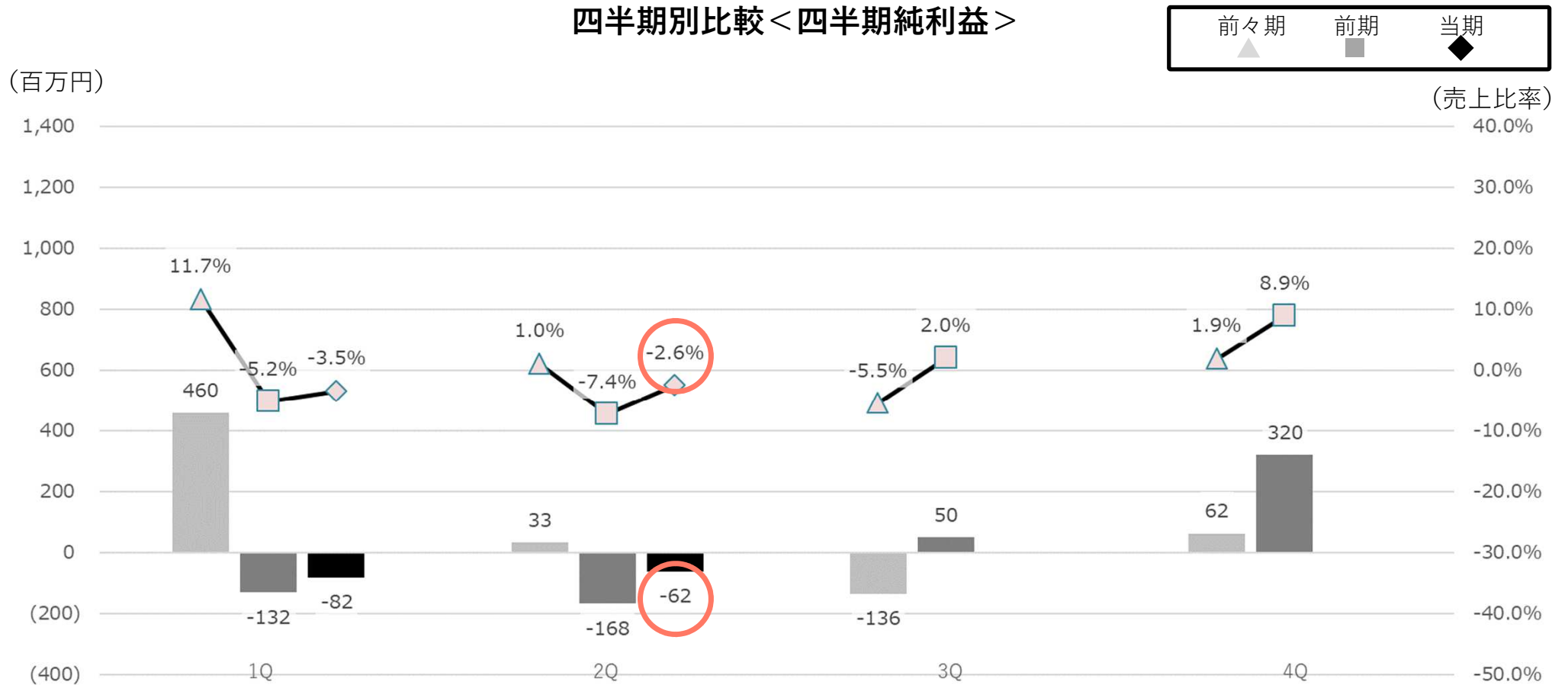
(百万円)



四半期別業績数値 四半期純利益

※前々期：連結・収益認識会計基準適用前 前期：連結・収益認識会計基準適用後 当期：個別・収益認識会計基準適用後

四半期別比較＜四半期純利益＞





TWINBIRD

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 執行役員 企画管理本部 副本部長 井上 淳也 (TEL : 0256-92-6111)

決算に関するお問い合わせ先

株式会社ツインバード 最高財務責任者 取締役 企画管理本部 本部長 渡邊 桂三 (TEL : 0256-92-6111)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は、資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び、当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。